

4億5,000万レコードの膨大なデータを2週間で移行

「eHuman II」の構築に当たっては、旧システムで利用されていた約3,000件の機能を移行し、お客さまからのさまざまな改善要望に応えた。また、最終的に新システムへ移行したデータは4億5,000万レコードに及んだが、移行ツール生成エンジンの活用などによって2週間での迅速な移行を果たした。2010年2月に予定どおりサービス提供を開始、その後も順次メニューを拡大し、労働基準法改正やNTTグループの制度改正にも対応しつつ、順調な運用を実現している。2010年末現在で、ユーザーの数は、約90社のグループ社員15万人に上る。

「大きな工期の遅れもなく、かつ現場に混乱をきたさずサービスを提供開始できた上、これまで約1年の運用でこれといったトラブルがないので大成功だったと思います。コスト削減、内部統制強化への対応といった当初の目的はほぼ達成できたと考えています」と語る小林氏は、最後に、今後への期待を込めて次のような言葉で締めくくった。「今後も、グループ各社をめぐる状況の変化に迅速に対応し、より価値の高いシステムを提供していかなければなりません。また、より多くのグループ会社でご利用いただき、NTTグループ全体としての投資コストを抑えることで、NTTビジネスアソシエのミッションを果たしたい。NTTコムウェアには、これまで同様の手厚い体制と迅速な対応により、私たちの課題解決に貢献していただければと考えています」

信頼関係に基づいて“よいものを作る”という目標を共有できました

NTTグループ約90社、15万人の社員が毎日利用する人事給与統合基幹業務システム「eHuman II」。旧システム「eHuman」を引き継ぐものであり、安定運用が求められる大規模システムということで、NTTコムウェアとしても並々ならぬ意気込みで開発に取り組みました。

eHuman IIの開発においては、ピーク時には400名を超えるメンバが開発に携わるという巨大プロジェクトであり、チーム数が20、参画する協力会社が19社という状況で、いかにしてプロジェクトの統制を図るかが大きな課題でした。情報共有を行うという観点から、生産性の向上及び品質向上を目的としたWG（ワーキンググループ）を立ち上げ、各チームが抱えている問題の共有や、設計・プログラミングルールの統一等をディスカッションする場を設けました。その結果、チーム間でベクトルが合い、お互いに技術補完を行う雰囲気を醸成することができました。

NTTコムウェアには、NTTグループの他の共通系システムや、NTT以外の巨大企業グループのシステムの構築・運用経験を持つ技術者が多数おり、今回のプロジェクトでもそのノウハウを最大限活用しました。その結果、品質の安定と、性能の向上を図ることができました。なかでも給与計算については、旧システムから比べて計算時間が1/5程度に短縮し、利用するユーザーの作業負担を軽減できていると思います。

おかげさまで「eHuman II」は順調に稼働していますが、ユーザーから新たなご要望も頂いており、引き続き改善を図っていきます。また将来的には、このシステムに蓄えられている人事給与関係の基本データを、グループ各社の他の業務システムでも利用できるように連携させることで、コスト効率を上げていけたら、NTTビジネスアソシエ様およびNTTグループへのさらなる貢献につながるはずです。

一方、「eHuman II」の構築・運用を通じて得た人事給与システムのノウハウは、企業規模の大小にかかわらず活用できるもの。そこでNTTコムウェアとしては、さまざまな企業に向けて人事給与にかかわるソリューションを提供することも視野に入れています。「eHuman II」ではOracle社のERPパッケージソフトであるPeopleSoft Enterpriseを採用し、構築しましたが、お客さまからのご要望に対し、スクラッチ開発や他のパッケージソフトの採用を含め最適なソリューションを提案し、構築できる技術力を持っていると確信しています。人事給与システムを基本として、より広く「ヒューマンキャピタル」の最適配置や育成など人材マネジメントを支援するソリューションを展開していきたいですね。



溝手 貴久
NTTコムウェア株式会社
エンタープライズ・ソリューション事業本部
HCMソリューション部 担当課長

90社15万ユーザー、1日200万アクセスを超える 人事給与システムをスムーズに構築・運用

CASE STUDY

エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社



エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社（以下、NTTビジネスアソシエ）では、NTTグループ約90社、15万人が利用する人事給与統合基幹業務システム「eHuman II」をユーザー各社にサービス提供している。その巨大システムを構築、運用しているのがNTTコムウェアだ。今回のシステム導入の背景や成果について、NTTビジネスアソシエの小林宏幸様にお話を伺った。

NTTグループの複雑な人事給与業務を支える巨大システム

NTTビジネスアソシエは、NTTグループ各社からさまざまな人事・総務・経理業務等のアウトソーシングを受け、サービスとして提供している。人事給与関連業務もその主要サービスのひとつだ。同社では、約8年間にわたって運用してきた人事給与統合基幹業務システム「eHuman.Hearts（以下、eHuman）」に代わる後継システム「eHuman.Hearts II（以下、eHuman II）」を導入、2010年2月にサービスの提供を開始した。NTTコムウェアは、システムインテグレータとしてその開発に携わり、現在まで順調に運用している。

NTTビジネスアソシエが提供してきた人事給与システムの特徴について、HRソリューション事業部ソリューション部門長の小林宏幸氏は次のように語る。「NTTグループに広く提供しているということから、規模の大きさが第一の特徴といえます。旧システムの時点からグループ80社以上、約14万人の社員が利用していました。同じNTTグループであり、基本的な仕組みは同様ですが、各社の業態に応じた人事制度の差異はあり、出向や転籍など会社をまたぐ異動も頻繁にあります。さらに、給与が出向元から出たり出向先で出たりとさまざまなケースもある。そうした複雑なフローに細部まで対応することが必要とされます」



小林 宏幸 様
エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社
HRソリューション事業部
ソリューション部門長

グループ各社でシステムを使用するユーザーは、人事給与管理を行う人事給与担当者から、勤務管理や年末調整などの申請等を行う個々の一般社員まで多種多様。それらのユーザーからのアクセスを合計すると1日200万件を超える。そんな巨大かつ複雑なシステムを円滑にサービス提供することが、今回のプロジェクトの目的だった。

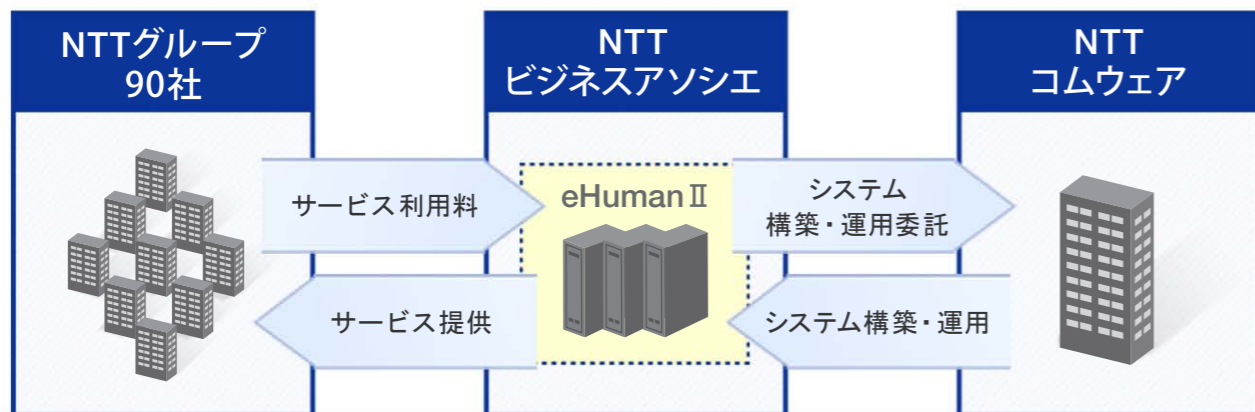
※記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。



NTTコムウェア株式会社

〒108-8019 東京都港区港南 1-9-1
NTT 品川 TWINS アネックス
URL: <http://www.nttcom.co.jp/>

■ eHuman IIのビジネススキーム



■ コンプライアンス強化と雇用形態の多様化に対応

新システム検討の直接的なきっかけは、長年使用してきたハードウェアの更改時期が迫っていたこと。それに合わせて、旧システム導入時点(2002年)以降のNTTグループをめぐる状況変化への対応も図ることとなった。「ひとつには、内部統制を中心とするコンプライアンスの強化です。SOX法に対応した各種データを取得できるようにしました。もう一点は、NTTグループ内でも正社員以外の雇用形態も増えており、そうした雇用形態の多様化にも対応する必要がありました」と、具体的なシステム変更点について小林氏は説明する。

NTTコムウェアは、旧システム[eHuman]の構築・運用を行ってきたノウハウを有し、業務に精通していること、またこれまでに他の大規模なシステムをともに提供してきた実績があることから、新システム構築に当たってもパートナーに選ばれた。NTTビジネスアソシエと具体的な仕様などの検討を開始したのは2008年4月。大規模で複雑なシステムに対して上記の変更を加えるだけでなく、旧システムに対するユーザーからの改善要望にも応えなければならない。さらには、従来独自システムを利用していたグループ会社を新たに統合するという、難易度の高いプロジェクトだった。

■ 旧システムから約20%のコスト削減を実現

プロジェクトが最初に直面した課題について、小林氏は次のように振り返る。「NTTビジネスアソシエの使命のひとつは、NTTグループ各企業のコスト効果の最適化を図ることではありますが、新システムでは機能向上とともにコスト削減を実現することが必須条件であったため、いかにして品質を確保しつつコストを抑えるかが最初の検討課題となりました」

システムの開発工数を適正なものにするため、NTTコムウェアは、仕様決定・要件定義の工程と実際の開発工程を別々の契約とする「フェージング契約」を提案した。これにより正確な要件定義ののちに開発工程に進むことができ、手戻りなどのリスクが回避できるため、コスト低減を意識し、より適正な見積りが可能となった。

運用においては、旧システム[eHuman]の運用ノウハウを踏まえてハードウェアのサイジングや必要な要員数についても最適化に努めることで、可能な限りのコスト抑制を図ることとした。

「最終的には旧システムと比べて、約20%程度のコスト削減が実現。NTTビジネスアソシエとして、お客さまであるグループ各社の要望にも応えることができたと考えています」と、小林氏はコスト面での成果について評価する。

■ プロジェクト進行を助けた綿密なコミュニケーション

新システム[eHuman II]の仕様等が決定し、システム構築がスタートしたのは2008年後半。大規模なプロジェクトだけに、開発にかかわる協力会社もかなりの数に上り、プロジェクト関係者が非常に多かった。そうした中で、品質を確保しつつ構築をスムーズに進めるためには、お客さまとの密なコミュニケーションが鍵となった。

「週に1回はNTTコムウェアのスタッフと進捗会議を持って、それまでの工程を振り返り、予定の遅延などに対してタイムリーに手を打つことができました。疑問や問題があれば、事の大小にかかわらず必ずこちらの理解を得るように心がけていただけたのは、ありがたかったですね。綿密なコミュニケーションによって信頼関係を固められたことが、今回のプロジェクトを円滑に進められた大きな理由だと思います」と、NTTビジネスアソシエの小林氏は振り返る。

先に触れたように、今回はグループ会社を新たに統合することになっていたが、同社の独自システムから[eHuman II]へのデータ移行は困難を極めた。特に、一部の社員については人事履歴データが複雑で、移行ツールの開発に多大な労力と時間がかかることが判明したため、NTTコムウェアは、該当社員のデータを手入力で移行することが納期を守るうえでベターであるとNTTビジネスアソシエに提案し、判断を仰いだ。

そうしたNTTコムウェアの姿勢について、「最終的には手入力という“ローテク”を使用することになりましたが、発注側として重要なのは目的を達成すること。方法はいわば二の次です。NTTコムウェアはこちらと同じ視点に立って、少々都合の悪い問題でも包み隠さず、早い段階で相談してくれた。結果として品質が担保され、お客さまである各グループ会社との対応も円滑に行うことができました」と小林氏は述べる。

